「地域発　元気づくり支援金」平成24年度事業に係るフォローアップ調査

各地域における取組事例一覧

地方事務所	タイトル	団　体　名
佐久	野辺山高原シクロクロスレースの開催	野辺山高原シクロクロス実行委員会（南牧村）
上小	丸窓電車保全活用活動	ＮＰＯ法人 さくら育英会（上田市）
諏訪	星の降る里から　縄文文化発信事業	縄文阿久友の会（原村）
上伊那	信州いいなか里山泊覧会イーラの開催	ＮＰＯ伊那里イーラ（飯島町）
下伊那	南信州の取組が全県へ拡大 ～物味湯産手形～	南信州観光連携プロジェクト会議（阿智村）
木曽	住民主体の身近な環境保全 アクションプロジェクト事業	木曽町環境協議会（木曽町）
松本	文化遺産の伝承によるまちづくり	岡田地区まちおこし協議会（松本市）
北安曇	自然からの贈り物「ジビエ」普及事業	美麻ジビエ振興会（大町市）
長野	篠ノ井の史跡・文化財を活用した まちづくり事業	篠ノ井史跡等ボランティアガイド会（長野市）
北信	困難を有する青少年への学習・相談・就労支援事業	特定非営利活動法人ぱーむぼいす（木島平村）

元気づくり支援金を効果的に活用し、その後も発展的に事業を継続している団体等の皆様から、最近の活動内容や今後の事業展望等についてお伺いしました。

地域づくり活動の参考となるような取組を各地域から報告いただいています。

野辺山高原シクロクロスレースの開催
（野辺山高原シクロクロス実行委員会）

団体紹介（私たちが目指しているもの）

○　シクロクロスレースとは、オフロードで行われる自転車競技で、１週２～３ｋｍのコースを決められた時間に何周できるかを競い合うものであり、この大会を野辺山で開催することで観光やスポーツの振興に寄与する。
○　国際大会として位置づけられているレースのランクや規模をさらに向上させ、国内外への発信をさらに強化していきたい。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

○　平成 22 年度に初めての大会を開催し、翌年には国際レースに昇格。毎年レースの運営ノウハウを蓄積するとともに計測器を導入するなど大会運営の効率化と信頼度向上を推進
○　村内に常設コースを設置し子供向けにスクールを開催するなど地元での普及活動を実施

年度	事業名	事業概要	支援金額
H22	野辺山高原シクロクロスレース運営事業	・第１回大会の開催 ・シクロクロススクール開催、シクロクロスレース上映会開催	868 千円
H23	野辺山高原シクロクロスレース運営事業	・第２回大会の開催（以後、国際レースに昇格） ・常設コースの設置 ・シクロクロススクール開催	2,623 千円
H24	野辺山高原シクロクロスレース運営事業	・第３回大会の開催（計測器購入） ・地元紹介のためのクロスツーリング開催 ・シクロクロススクール開催	733 千円

最近の活動内容

○　毎年継続して国際レースを開催し、参加人数 1,200 人以上、観戦者も 1,000 人以上と国内最大級のシクロクロスレースとして定着(2015 年度は 11 月 28 日～29 日の２日間で開催)
○　大会ロゴ入りのグッズも毎年人気で、高いレベルのブランド力を維持しているが、さらに毎年デザインを更新して新鮮さを出している。また、スポンサーを得るための営業活動・発信を活発に行っている。

【アメリカから来日した国際トップレベルのレーサー達】

取組の効果

○　自転車の人気は引き続き高まる方向にあり、イベント自体の参加人数も増えていることに加え、大会を２日間連続にしたことにより、連泊の参加者が増加し、野辺山の宿泊施設の空き部屋を見つけるのが困難なほどにまでなった。
○　海外への発信も行っているため、特に英語圏からの参加者も徐々に増え長期滞在が増えている。
○　通年の発信を含めサイクリングデスティネーションとしての野辺山の知名度が上がり、普段からサイクリストが増えた。

【子供クラスのエントリーも 50 人以上と国内最大級】

課題、今後の事業展開など

○　更に国際レースのランクを上げ、より広範囲の国からの参加者とメディア露出を増やすことができれば、南牧村だけでなく長野県として自転車が走りやすく景観も望ましい場所としてアピールできるとともに、年間ビジターを増やせるようになる。

団体名　　野辺山高原シクロクロス実行委員会
ホームページ
http://nobeyamacyclocross.cc/

丸窓電車保全活用活動
（ＮＰＯ法人 さくら育英会）

団体紹介（私たちが目指しているもの）

本法人は、上小地域の通信制・定時制高校に在籍し経済的理由により就学が困難な者の負担軽減を図るための奨学金授与を目的として平成 19 年 6 月に設立された。

その後、青少年健全育成を目的とした事業を併せて展開し、丸窓電車保全活用もその一つである。約 60 年塩田平を走り第一線を退いたモハ 5251 形「(通称) 丸窓電車」の保全活動を通じ、教育・青少年育成・地域交流・地域観光の発展・地域交通の利用促進等に寄与することを目指している。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

年度	事業名	事業概要	支援金額
H24	丸窓電車保全活用活動	上田電鉄から寄贈を受けた「丸窓電車」の補修を地域住民と協働で実施し、地域鉄道の歴史や丸窓電車の利用法についてリレートーク講演会を開催した。	2,171 千円

最近の活動内容

上田電鉄から寄贈を受けた丸窓電車は、補修によって外観・内観が整備されたことにより、地域の保育園児や小学生などを始め多くの方々が訪れている。

平成 25 年度、さくら国際高等学校内に生徒による「丸窓電車委員会」を立ち上げ、活用方法の検討を行ってきた。委員会では、当初、校内活用を主目的としていたが、平成 27 年度からは保育園や地域と積極的に交流する目的に重きを置いており、委員会所属の生徒中心に、地域の方、特に保育園児を主眼に活動を行っている。

・オリジナルキャラクター「ぴよ丸」を利用したグッズ展開
・煌桜祭（さくら国際高等学校文化祭）での丸窓電車開放
・ホームページ、ツイッターによる情報発信
・別所線等電車に関係する団体への参加と積極的な広報

【丸窓電車とさくら国際高等学校】

取組の効果

丸窓電車の設置・補修後、近隣の西塩田保育園が訪れ同校生徒との交流等を行ううちに、他の保育園からも訪れたいという要望があり、遠足の行程に組み込まれるようになった。

さくら国際高等学校には丸窓電車が置いてあるという認知度も高まりつつあり、小学生が放課後に遊びに来るなどの光景も見られる。また、上田市図書館主催の「図書館で調べて別所線に乗ろう」という企画に丸窓電車が利用される等、活用の範囲が大きく広がっている。

課題、今後の事業展開など

次のような課題があるが、これからもより多くの方に認知してもらい、保全活動に協力を得られるような体制を築きたい。

・経年劣化による再補修の資金調達（雨漏り防止、再塗装工事）
・効果的な広報の実施、グッズ展開の在り方
・保育園や小学校との更なる交流の促進の在り方

団体名　ＮＰＯ法人　さくら育英会（上田市）
連絡先　0268-39-7707（さくら国際高等学校内）
ホームページ
http://marumado-trainsakura.p2.weblife.me/

星の降る里から　縄文文化発信事業
（縄文阿久友の会）

団体紹介（私たちが目指しているもの）

八ヶ岳山麓は、かつてペンションブームの先駆けをなして賑わったが、近年はその面影もなく、再び活性化を望む声が高まっている。元気あふれるムラを築くため、21 世紀の主力産業といわれる観光―文化観光産業の振興を図り、地域活性化を進める活動を計画した。

信州の最も特色ある地域文化「縄文」を生かした村づくりを行うとともに、地球(環境)にやさしい、ヒト(全人類)にやさしい縄文文化を世界に発信していくことによって、住んでいる郷土に誇りが持てるように、また文化観光産業によって村の活性化するように事業を進めてきた。

その理念の元に事業を起こしつつ、縄文講座の受講生により事業推進母体となるグループとして縄文阿久友の会が結成され、平成 25 年度より事業を継続している。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

年度	事業名	事業概要	支援金額
H22	星の降る里から 縄文文化発信事業	土器太鼓づくりと演奏、ドングリ林調査と育苗ほか	485 千円
H23	〃	新たに、ドングリクッキーづくり、黒曜石鉱山ほか史跡めぐり、縄文織講習会ほか	810 千円
H24	〃	これまでの事業をすべて継続し、活動グループ立ち上げ、ホームページを開設する	1,439 千円

※支援金活用事業は、（一財）原村振興公社が実施

最近の活動内容

・ホームページの充実(継続中)
・土器太鼓づくりと演奏、野焼火祭り
・ドングリ料理とシカ肉の燻製で縄文食復原講座
・いにしえの織「縄文織」で衣装をつくる講習
・縄文学習講座
・縄文の史跡めぐり
・ワークショップ「縄文のワークマンと遊ぼう」
・推進母体「縄文阿久友の会」(会員数 45 名)の運営

【土器太鼓づくり：野焼きの後で作品と記念写真】

取組の効果

・先行する茅野市や富士見町に続いて、原村にも縄文文化を愛する人々の活動母体が誕生した。
・縄文文化発信と縄文関連活動・事業のネットワークづくりが、ホームページ開設によって行政の枠を超えて可能となった。
・この 1，2 年の間に縄文関連のまちづくり事業や活動が大幅に増えてきた。縄文への関心を高める効果があったことは明らかである

【　縄文織講習　】

課題、今後の事業展開など

・アピール度が弱く、希望者は多いが参加者が少ないことが、今後の最も大きな課題となっている。
・文化観光の振興とは、縄文文化の魅力を如何にアピールして、地域の誇りを高揚し、地域の活性化を図ることであり、その崇高な理念のもとに、いかにして活動を続けていくか、継続、発展の方策が問われている。

団体名　縄文阿久友の会　八ヶ岳自然文化園
連絡先　0266-74-2681
ホームページ　http://www.jomon-akuyu.com/

信州いいなか里山泊覧会イーラの開催（ＮＰＯ伊那里イーラ）

団体紹介（私たちが目指しているもの）

より多くの人に信州伊那谷を訪れてもらうために、まず地域住民が地域資源の魅力を体験し、認識することによって、交流人口の増加につながると考えられる。そこで、地域資源を活かした多彩な体験交流型プログラムを一定期間に集中開催するまちづくり手法「オンパク」により、地域資源発掘と人材育成、地域資源のビジネス化へ向けて成果をあげる。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H22	信州いいなか泊覧会イーラの開催	地域資源を活用した体験交流型プログラム「オンパク」の手法を活用した「信州いいなか里山泊覧会イーラ」の開催により、地域住民自らが地域資源の魅力を発信する。	1,818 千円
H23	信州いいなか里山泊覧会イーラの開催	地域資源を活用した体験交流型プログラム「オンパク」の手法を活用した「信州いいなか泊覧会イーラ」の開催により、地域住民自らが地域資源の魅力を発信する。	1,997 千円
H24	信州みなこい里山泊覧会イーラの開催	地域資源を活用した体験交流型プログラム「オンパク」の手法による「信州みなこい里山泊覧会イーラ」の開催について、駒ヶ根市、宮田村との連携、プログラム企画力の向上、運営組織体制の強化を目指す。	1,728 千円

最近の活動内容

・信州伊那里泊覧会イーラの開催
・都市企業との交流のための情報発信、情報取集
・信州伊那里自給楽園事業
　（都市企業との交流・イーラプログラム情報発信・農業塾）

【企業等の研修ゲストハウス】

取組の効果

都市農村交流の推進や都市企業との継続的な交流により交流人口が増加した。また、都市企業の社員食堂での地域食材の提供や社員に向けた野菜の通販、企業のノウハウを活用した生き物調査の実施、地域住民と都市住民とのイーラプログラム開催による交流等、さまざまな波及効果が生まれている。
【来訪者】　H26・40 人　H27・160 人

【農業塾の様子】

課題、今後の事業展開など

都市農村交流の更なる推進
・これまでのイーラプログラムの蓄積の効果的なＰＲ
・都市企業と地域とのコーディネーターのきめ細やかな対応
・地元住民の積極的なおもてなし
・都市企業との交流を年間を通して継続させるために企業のニーズに沿った提案

団体名　ＮＰＯ伊那里イーラ
（元 ＮＰＯ法人　飯島中川政経人会議）
ホームページ　http://gqrakuen.net/
メールアドレス　info@gqrakuen.net

南信州の取組が全県へ拡大　～物味湯産手形～
（南信州観光連携プロジェクト会議）

団体紹介（私たちが目指しているもの）

南信州観光連携プロジェクト会議は、平成 22 年に JR が展開した信州デスティネーションキャンペーンをきっかけに設立し、南信州地域の観光振興につなげていくため、民間観光事業者主導で南信州の観光戦略を検討し、具体的企画を提案している。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

平成 22 年に旅の基本要素である見物、味覚、湯めぐり、土産を網羅した観光クーポン冊子「物味湯産手形」を発行していたが、平成 24 年度に地域発 元気づくり支援金を活用し、この取組を飯田・下伊那地域だけでなく、木曽・上伊那・諏訪地域にも広げた。

さらに、平成 25 年度には、各市町村の枠を超えた全県での広域連携を図り、「全県版」として発行することができた。

年度	事業名	事業概要	支援金額
H24	下伊那地域・各市町村の枠を超えた広域連携による「物味湯産手形」を軸とした誘客キャンペーン事業	・木曽・上伊那・諏訪地域の参画を図り、更に多くの施設や情報を掲載した。 ・パンフレットや専用ウェブサイトを作成し、ＰＲを行った。 ＜作成部数：５万部＞	2,136 千円
H25	各市町村の枠を超えた全県での広域連携による「物味湯産手形全県版」を軸とした誘客キャンペーン事業	・平成 24 年度の取組を更に全県へと広げ、参画施設や掲載情報を増やした。 ・専用ウェブサイトを充実させ、情報発信を充実させた。 ＜作成部数：10 万部＞	2,376 千円

最近の活動内容と取組の効果

物味湯産手形の発行は、平成 25 年度の全県版の取組が好評を博し、平成 26 年度からは長野県観光協会の事業として拡大が図られた。

また、南信州観光連携プロジェクト会議としては、これと並行して、行政機関とも連携しながら「南信州キャンペーン」を展開している。メインターゲットとなる東海地域を中心に静岡県浜松市、愛知県豊橋市と愛知県名古屋市金山での観光ＰＲの他、リニア中央新幹線の開通を見据え、東京に新たにオープンした銀座ＮＡＧＡＮＯにおける情報発信を実施している。

【物味湯産手形と長野県全域ＭＡＰ】

【南信州キャンペーン in 浜松】

課題、今後の事業展開など

「信州」と言えば、観光地としての高いネームバリューはあるものの、「南信州」は他地域に比べて認知度が低い状況にある。

当地域はリニア中央新幹線の開通を控えており、今後、南信州というブランド価値を高め、注目を集める地域となるため、これまでのような個別の市町村単位によるＰＲではなく、南信州地域が一体となって、戦略的な情報発信等を進めていきたい。

団体名　南信州観光連携プロジェクト会議
（阿智村）
連絡先　0265-43-4656

住民主体の身近な環境保全アクションプロジェクト事業（木曽町環境協議会）

団体紹介（私たちが目指しているもの）

平成 20 年 7 月『木曽町環境基本条例』が施行され、木曽町の環境に対する方針が示されました。この条例では、良好な環境の保全と創造を基本理念に、第 4 条に「町の責務」、第 5 条に「町民の責務」、第 6 条には「事業者の責務」を定め、環境保全活動への積極的参加を求めています。この条例に基づき、平成 21 年 10 月 14 日に『木曽町環境協議会（エコネットきそ）』が町民により設立され、5 つの専門部会（事業部会、住民運動部会、環境教育部会、環境計画部会、広報部会）を組織し、平成 22 年度より本格的に活動を始めました。

更に環境協議会が中心となり、平成 25 年 3 月に『木曽町環境基本計画』が策定され、計画を推進しながら活動しております。

現在は部会の統合等により、3 つの専門部会（環境教育部会、事業部会、住民運動部会）により活動しており、そのなかで“きそネイチャーマイスター養成講座”は、木曽の環境について学び考えるための事業です。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

支援金の活用により、自己資金だけでは購入できない備品等揃えることができ、事業の幅が広がりました。

年度	事業名	事業概要	支援金額
H24	住民主体の身近な環境保全アクションプロジェクト事業	きそネイチャーマイスター養成講座の開講	1,581 千円

最近の活動内容

地元や信州大学等から講師をお願いし、木曽の様々な自然環境について学び、考える体験型学習講座を開催しています。A～F の 6 講座の実習のうち 3 講座受講し、所定の課題を提出すると“きそネイチャーマイスター”、また、6 講座全てにおいて所定の課題を提出すると、“上級きそネイチャーマイスター”の資格が認定されます。現在まで、“上級きそネイチャーマイスター”は 16 名、“きそネイチャーマイスター”は 32 名、計 48 名の方が認定されています。

平成 26 年度には、本講座 6 講座で 171 名、特別編 2 講座で 21 名、出前講座 5 園で、127 名の計 319 名参加を頂き、大好評となっています。

【川の虫に聴く、水の中の住みごごち！】

【山菜を食べよう！】

取組の効果

木曽の環境や生物について興味を持ってくれる方が増え、参加者も年々増えています。また、平成 26 年度からは町教育委員会と協力して、小学生を対象とした『きそジュニアマイスター』講座の開設に派生しました。町内の小学生が、身近な自然環境について楽しみながら学んでいます。

課題、今後の事業展開など

今後は資金源であった、『木曽町ふるさとクリエイティブ事業補助金』が活用できなくなる為、資金の確保が課題となる。また、来年度はいままでのきそネイチャーマイスター養成講座の活動を紹介し、資料としても使える『きそネイチャーマイスター養成講座オフィシャルブック』の作成を考えています。

木曽町環境協議会事務局（木曽町役場 町民課 環境係内）
電話：0264-22-4281（直通）FAX：0264-24-3601
メールアドレス：kankyo_ct@town-kiso.net
ホームページ　：http://www.kiso-eco.net/

文化遺産の伝承によるまちづくり
（岡田地区まちおこし協議会）

団体紹介（私たちが目指しているもの）

岡田地区では、平成 23 年度に次項に挙げる三事業を「地域発　元気づくり支援金」をいただいて、別々の三団体が実施した。三事業の継続事項について、各団体の代表者が協議した結果、文化遺産の伝承という共通事項があるために「文化遺産の伝承」を目的にして、「岡田地区まちおこし協議会」を設立し、それぞれの事業を継承していくことを確認して現在に至っている。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

年度	事業名	事業概要	支援金額
H24	史跡・口頭伝承等検証・保存・伝達事業	案内看板の設置、ウォーキングイベントの開催、史跡・石造文化財等の案内用マップの作成、岡田地区に伝わる民話を題材とした紙芝居の作成・上演	857 千円

関連事業
H23　善光寺街道刈谷原峠道の整備と石造文化財の保存（岡田・本郷町会連合会）979 千円
H23　先人の生きざまを後世に伝える事業（先人の生きざまを後世に伝える会）　670 千円
H23　岡田地区　石造物の調査・記録・保存事業（岡田冠者親義を讃える会）　756 千円

最近の活動内容

＊平成２５年度　デイラボッチ伝説の地と山中の石仏を巡るウオーキングの開催と切絵大型民話紙芝居「田溝池の大蛇」の制作準備・紙芝居の上演。
＊平成２６年度　岡田の観音霊場を巡るウオーキングの開催と紙芝居「田溝池の大蛇」完成・上演。岡田地区ウオーキングマップ（松本市地域力アップ提案協働事業）の制作。
＊平成２７年度　峠と山城を巡るウオーキングの開催。
紙芝居の上演　５月　Ｍウイングの公民館活動発表会
　　９月　岡田二万五千日展
＊平成２５年度～平成２７年度　切絵紙芝居の制作スタッフ養成を目的にして岡田地区福祉ひろばにおいて切絵教室を運営。

【二万五千日展の紙芝居の上演】

取組の効果

岡田の民話紙芝居は、年間２～３件他所の公民館などの団体から見学の依頼が来るようになった。また、毎年の地区内町会の敬老会などに貸し出しをしているので、地区内の住民が地区の民話に興味を持つようになった。
ウオーキングは、当初１０人～２０人位の参加者であったが、年々参加者が増えて、本年度は７７人の参加者があり、地区内の史跡・遺跡・歴史民話の伝承地などに興味を持って、地区を訪れる人が多くなっている。

【峠と山城を巡るウオーキング】

課題、今後の事業展開など

＊　地区に伝わる民話がまだ数点あるのでそれらを紙芝居にして遺して後世に伝えたい。
＊　市内の他地区に伝わる民話なども何らかの形で紹介していきたい。
＊　今後は、隣接する地区の遺跡・史跡など当地区と関連のあるところをウオーキングしながら紹介していきたい。

団体名：岡田地区まちおこし協議会（松本市）
連絡先：松本市岡田町５１７-１
メールアドレス：
okada-s@city.matsumoto.nagano.jp

自然からの贈り物「ジビエ」普及事業
（美麻ジビエ振興会）

団体紹介（私たちが目指しているもの）

○美麻地区では、数年ほど前から野生鳥獣による農林業被害や生活被害が深刻化したことから、有害鳥獣駆除を目的にニホンジカ・イノシシ等を捕獲してきたが、大半は焼却・埋設処分され希少な食肉が無駄にされていた。
○そこで、狩猟肉を大切な地域資源ととらえ、捕獲個体の有効活用を図るべく、食肉の安全性や品質確保に配慮した、解体・処理・加工する拠点施設の整備を図った。
○農林業被害軽減を図ることで、農業者等の就業意欲の復活につなげるほか、狩猟肉の有効活用による産業振興を通じた元気な山村づくりを目指し、地域ぐるみで活動している。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

○有害鳥獣狩猟肉の解体処理加工施設が設置されたことで、解体処理される狩猟肉が増加し、捕獲鳥獣の有効活用や地域ぐるみによるジビエ普及に向けた取り組みにつながった。

年度	事業名	事業概要	支援金額
H24	自然からの贈り物「ジビエ」普及事業	猪鹿等有害鳥獣の捕獲個体の解体施設建設と「ジビエ」の普及	4,626 千円

最近の活動内容

○平成 24 年度～平成 25 年度
主に「ジビエ」という言葉を知ってもらうため、マスコミへのアピール、料理講習会、イベントへの参加を関係団体等との連携を含め積極的に実施した。また、ジビエ取扱店確保のための営業も積極的に行った。

○平成 26 年度～現在
上記に加え、ジビエの取扱店の取扱量が増えてきたので、ジビエの需給バランスを保つため、近隣市町村猟友会と行政との連携を図っている。

【捕獲した鹿】

取組の効果

○有害鳥獣に対する意識が防御だけでなく駆除へと広がった。また、中学生の調査研究等にも取り入れられ、解体施設の見学体験も実施している。
○地区内イベントに参加してジビエ料理を提供し、実際に食べてもらうことで有害鳥獣の捕獲への理解・意識をもってもらえるようにアピールした。

【鹿肉の解体処理加工】

課題、今後の事業展開など

○美麻地区は５地区から構成されており、わな猟等の狩猟免許者の各地域での偏りがないよう取得者を募り、ジビエ振興会への加入も併せてお願いしている。
○また、市内では美麻小中学校の給食にジビエを提供している。
○長野県内外からの解体施設及びジビエ料理等の視察にも積極的に対応している。
○鹿肉の取扱店は確保できているが、猪肉の取扱店をいかに確保していくかが今後の課題である。

団体名　美麻ジビエ振興会（大町市）
連絡先　0261-29-2813（美麻商工会内）
メールアドレス　miasasyo@zk9.so-net.ne.jp

篠ノ井の史跡・文化財を活用したまちづくり事業
（篠ノ井史跡等ボランティアガイド会）

団体紹介（私たちが目指しているもの）

交通の要衝、篠ノ井は古くから拓けており、寺社をはじめとした古建築があるとともに、「布施の戦い」など歴史的価値にも恵まれている。
これら篠ノ井地区の史跡等のガイド及び地域の文化財の発掘・保護・活用を通じて地域の活性化を図る。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

篠ノ井地区の活性化を図るため、平成 24 年度には古道めぐりや、募金により建立した石碑の建設記念イベントを開催した。支援金活用事業の終了後も石碑周辺の草取りにおける地元区との提携など、団体と地元が連携し、篠ノ井全域の事業として継続した取組を展開している。
また、平成 27 年度には住民協働による古建築調査を行い、篠ノ井の文化の掘り起こしを行っている。

年度	事業名	事業概要	支援金額
H24	シンボルタワー「布施の戦いの地跡」石碑建設による活性化起点の創生	・碑文を記載した石碑建立（篠ノ井駅西口ロータリー）に併せた記念イベント開催 ・地域の歴史ウォーキングイベント開催	433 千円

最近の活動内容

①石碑を起点として継続的に春の古道めぐり、秋の古道めぐり、まちなか歴史探訪、区長史跡研修会などを開催
②「布施の戦いの地」知名度向上事業として、継続した歴史講演会を開催
③駅構内に大型ポスター３箇所掲示、パンフレット「布施の戦いの地」20,000 部の配布と設置、石碑周辺の草取管理を実施
④篠ノ井の古建築調査、マップ等の作成、現地見学会などを開催

【布施の戦いの地大型ポスター】

取組の効果

① 布施の戦いについて、若い人たちにも知名度が向上した。
② 篠ノ井全域（七地域 74 区対象）の活動のネットワークが補強された。
③ 44 年間継続している篠ノ井合戦祭と関連した事業展開を行い、地域の活性化を図ることができた。

【篠ノ井の古建築現地見学会】

課題、今後の事業展開など

① 今後の課題 ： 後継者の育成と活動資金確保
② 今後の事業展開： 文化財保護・活用・活性化の視点から篠ノ井大獅子の常設展示、旧置屋古建築の保存活用運動の展開など

団体名 篠ノ井史跡等ボランティアガイド会
連絡先 026-285-0228
篠ノ井地区住民自治協議会事務局
メールアドレス wtnd@avis.ne.jp

困難を有する青少年への学習・相談・就労支援事業
（特定非営利活動法人ぱーむぼいす）

団体紹介（私たちが目指しているもの）

学校生活に抵抗感がある、行きにくさを感じている青少年や保護者を支援するため、平成21年にＮＰＯ法人を設立し、行政や地域と連携しながら困難を抱える青少年の成長を支え、社会的自立に向けた支援活動を行っている。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

社会的支援を必要としている青少年の自立支援策として
①遊休農地を利用し、大豆を栽培、出荷、販売まで行った。
②就労支援の拠点施設として「ほっぷ・すてっぷＪＯＢ college」を開設、基本的な生活習慣等を身に着けるため、キッチンを整備した。

年度	事業名	事業概要	支援金額
H24	遊休農地を使った大豆生産活動を通じた子ども・若者の自立支援事業	社会的支援を必要としている青少年の自立支援として遊休農地を利用した大豆の栽培にあたり、専用脱穀機を導入し、刈取り、脱穀作業を行い、出荷、販売まで行った。	734千円
H27	困難を有する若者が就労につながることを支援する場所づくり事業	社会的自立が困難な高校卒業以降の若者の就労準備のための支援施設「ほっぷ・ステップＪＯＢcollege」を開設、生活自立支援を行うためキッチンを整備した。	576千円

最近の活動内容

○大豆の栽培、収穫作業については引き続き行っている。
現在では、地域の農家が高齢のため困難な作業（脱穀）を請け負ったり、豆の種類についても注文を受けて栽培するなど事業としての広がりも見せている。

	24年度	25年度	26年度
延べ実習者数	177人	206人	223人
収穫量	230kg	243.5kg	292.0kg
売り上げ	72,200円	75,485円	89,936円

【大豆脱穀作業】

○高校卒業後すぐに進学や就労に結びつかない、引き続き支援を必要とする若者の居場所として27年度「ほっぷ・すてっぷＪＯＢcollege」を開設し、就労等に結びつける支援を行っている。

【自炊練習】

取組の効果

○地域の若者の利用増加　：通信制高校生51名、就労準備支援4名
○26度進路実績(高校生)：就職6名進学3名(9名中)
○大豆収穫作業のうち選別作業を障がい者就労支援施設へ委託しており、農業と福祉の連携が図られている。
○27年度には中野市から就労準備支援及び学習支援事業業務を、飯山市から自殺対策強化事業若者相談窓口業務をそれぞれ受託するなど行政機関との連携が進み、これまでの地道な相談活動等の取組みが広く理解され需要が増してきている。

課題、今後の事業展開など

○飯山市の遊休農地を利用し、北信濃の伝統野菜であるゴボウの栽培に取り組みたい。
高齢化等により栽培が減少していることから、大豆と同様に収穫の作業を若者が担うことで高齢農業者の生産見通しがつけられ、かつ地域農業の活性化が図られると考えている。

団体名　特定非営利活動法人ぱーむぼいす
（木島平村）
連絡先　0269-67-0415
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://www9.plala.or.jp/palm-voice/